

はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の卒後研修に関する調査

筑波技術大学 保健科学部 附属東西医学統合医療センター

櫻庭 陽

キーワード：はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師，卒後研修，アンケート

成果の概要

2015年5月22日（金）～24日（日）に開催される、第64回全日本鍼灸学会学術大会（ふくしま大会）に演題登録を行い、採択された。以下、発表の抄録を示す。

鍼灸あん摩マッサージ指圧師の卒後研修に関するアンケート調査
—養成大学の学生を対象とした調査—

櫻庭陽 1)，福島正也 1)，近藤宏 2)，岡田富広 3)，川浪勝弘 4)，鈴木聡 4)，森山朝正 2)，木下裕光 1,2)

1) 筑波技術大学

保健科学部附属東西医学統合医療センター

2) 筑波技術大学保健科学部保健学科

3) 福岡県立福岡高等視覚特別支援学校

4) 北海道鍼灸専門学校

5) 鈴鹿医療科学大学

【目的】あん摩マッサージ指圧師，はり師，きゅう師の養成大学（以下，養成大学）学生を対象に資格取得後の研修に関するアンケート調査を行い，そのニーズ等を明らかにした。

【方法】対象は本邦の養成大学最終学年の学生で，期間は2013年12月から2ヶ月間とした。各養成大学で無記名の選択または記述式で回答を得た後，郵送にて回収した。主な内容は技術や知識の修得の程度，卒後

研修の必要性とその具体的事項とした。

【結果】最終学年が在籍している9大学のうち7大学，189名から回答を得た。知識や技術は養成校で習得した内容で十分かどうかという設問では，知識は75.1%が，技術は83.6%が“不十分”と回答した。研修制度について，“必要”が76.7%，“不要”が20.6%であった。研修制度が必要と回答した145名に具体的事項を質問した結果，研修で最も学ぶべきことは“多様な疾患に対する治療手段(以下，治療手段)”が20.9%と最多で，“治療に必要な知識(以下，知識)”が17.6%，“安全な技術”が14.5%と続いた。対象者は“全ての有資格者”(43.3%)が最多で，次に“新卒者”(35.9%)であった。また，実施施設は“どこでもよい”が26.9%，次に“専門学校や大学の施術施設”と“治療院”が各々23.4%であった。

【考察】本結果より，知識や技術の不足感が卒後研修のニーズを高めていることが示唆された。実際，重要視する研修内容は治療手段や知識が多かった。また，具体的な対象者や施設については柔軟に捉えているようであった。平成26年度より2つの職能団体と学会，教育機関の4団体が設立した「国民のための鍼灸医療推進機構」が鍼灸師の卒後研修を開始した。これを契機に，ますます卒後研修の制度や環境整備が進むことが期待される。業界や関係者にとって理想的な研修の制度・環境を構築するためには，今後，特別支援学校や専門学校の学生，既資格取得者まで対象を広げて調査を行う必要があるだろう。